

**やさしい病害虫講座 26**

**「密かに仲間入り」**

木村 裕

夏の花の代表選手の一つとされているヒマワリ、頑丈そうであるにも関わらず、葉が黄変→褐変して枯れて早々と店じまいをするのが散見されますが、原因はわかりますか？



**葉の被害と成虫**

原因はアワダチソウグンバイと称する小さな虫が汁を吸ったために起こりました。葉の色が悪くなった部分をよく見てください。長さ3ミリ前後、半透明で茶色の横縞が入った虫が寄り集まっているのが分かります。カメムシ一家に属しており、尖った口ばしを葉に突き刺して汁を吸うのでその部分はカスリ状に色が抜けて黄色の斑紋になります。また、お尻からコールタールのような黒い粘液を排出するため、被害部には転々と黒いヤニが付着するのが特徴です。これは成虫で幼虫は褐色の虫で数十からなる集団をつくります。



**軍配型をした成虫**

この仲間の虫は、羽を折り畳むと相撲の行司さんが持っている軍配のような形になることからグンバイムシと名づけられています。

この虫は7~8年前に海外から密入国した新参者ですが、すでにセイタカアワダチソウ、ヒマワリ、キク、ジニア、メランポディウム、シロクジャク、アザミなどのキク科の多くの植物に寄生し、とくにヒマワリとシロクジャクに大きな被害を与えています。



**幼虫集団と黒い排泄物**

ヘクソカズラの葉が白っぽくなるのはヘクソカズラグンバイムシが犯人で、ほぼ同じ時期に海外からやってきました。また、数年前にはプラタナスの葉裏につくグンバイムシもやってきました。

グンバイムシの仲間はこのように餌場が決まっており、決して他の仲間とは争わないよう取り決めがされているようです。日本に昔からいるのは、ツツジにつくツツジグンバイ、サクラやボケにつくナシグンバイ、アセビにつくトサカグンバイなどです。



**ツツジグンバイの被害**